彦根城博物館だより 114

2016.9.1

Hikone Castle Museum News

特別展

開館30周年記念

コレクター大名 井伊直亮
―知られざる大コレクションの全貌―

10/28(金)～11/27(日)

万国人物図　当館蔵

古くは南蛮系世界地図とともに描かれた人物図を、人物図のみを描いて巻物に仕立てたもの。「大明」「大清」から始まる世界四十カ国の男女の人物を描いています。

嘉永元年（一八四八）、井伊家十二代直亮（一七九四～一八五〇）が金五両三歩銭五百四十文で購入しました。直亮自身が記した買物帳と作品の書付によれば、彦根藩医の河村順碩に江戸で入手させ、「珍しき品」であったために取り入れたということです。直亮は、家臣などに指示して種々の品を入手し、晩年までそのコレクションを充実させ続けました。

展覧会情報

テーマ展
井伊家伝来 狂言の面と装束
9月2日▼▼9月27日

企画展
参勤交代と彦根藩領
―大名行列を迎えた人々―
9月30日▼▼10月24日

特別展
開館30周年記念
コレクター大名 井伊直亮
―知られざる大コレクションの全貌―
10月28日▼▼11月27日

テーマ展
祈りと救い
―彦根城博物館仏教美術選―
12月1日▼▼12月22日

展示案内 9月～12月

常設展示 ”ほんもの“との出会い

―彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に八〇点あまりを展示―

テーマ展　展示室1

9/2（金）～9/27（火）

井伊家伝来 狂言の面と装束

狂言は、猿楽の滑稽なものまね芸が洗練されて、鎌倉時代から室町時代に成立した喜劇です。幽玄を旨とする能とは異なり、笑いを誘う台詞と身ぶりによって、中世の庶民の姿をいきいきと描き出します。

本展では、能面、能装束とは異なる、狂言の諧謔味ある面や大胆なデザインの装束の魅力を紹介します。

狂言面 祖父

狂言装束 紺地蟹文様

◉ギャラリートーク◉

■日時　9月3日（土）
11時～、14時～

■講師　茨木 恵美（当館学芸員）

企画展　展示室1

9/30（金）～10/24（月）

参勤交代と彦根藩領 ―大名行列を迎えた人々―

江戸時代、交通の要衝に位置した彦根藩の領内には、中山道や北国脇往還などの街道が通っていました。西国や北陸の大名たちは、参勤交代の道中でこれらの街道を使い、彦根藩領を通っていくことがありました。

領内を通る大名たちに対して、彦根藩やその領民は、「馳走」とよばれるもてなしをしていました。本展では、彦根藩の「馳走」行為から、江戸時代の大名同士の関係や大名と領民との関係を読み解きます。

諸御大名様并御役人中様方御通行之節宿々馳走覚

◉ギャラリートーク◉

■日時　10月1日（土）
11時～、14時～

■講師　松浦 智博（当館学芸員）

特別展　展示室1～3

10/28（金）～11/27（日）

開館30周年記念

コレクター大名 井伊直亮 ― 知られざる大コレクションの全貌 ―

井伊家十二代の直亮（一七九四～一八五〇）の人生は、質量ともに充実した、多彩なコレクションで彩られたものでした。

既に日本有数の楽器コレクションとして知られている雅楽器をはじめ、甲冑や兜、刀剣、更紗、書画、典籍、文房具、時計やオルゴール、ピストルなどの南蛮渡来品等、収集対象は幅広く、民間の窯を買い上げて藩直営として好みの焼き物も作らせています。

直亮のコレクションの大きな特色は、詳細を記した道具帳を自ら作成している点です。自分の審美眼でもって物を収集し、細かく把握し、意に叶ったものに囲まれて生きる姿が浮かび上がってきます。

本展は、直亮のコレクションを中心に、同時代の大名のそれも併せて紹介し、大名のコレクションの特質を考えようとするものです。

井伊直亮画像（清涼寺蔵）

彦根屏風（部分）

湖東焼 染付波涛図吹上龍口水瓶（たねや美濠美術館蔵）

彦根更紗（東京国立博物館蔵）Image：TNM Image Archives

◉ギャラリートーク◉

■日時　10月29日（土）　11時～、14時～

■講師　髙木 文恵（当館学芸員）

＊特別展関連講演会、シンポジウムを開催します。詳細は4頁をご覧ください。

研究余録

金亀玉鶴

ガラス乾板写真に写された演能

井伊家十五代直忠（一八八一～一九四七）は、観世流の梅若万三郎（一八六八～一九四九）や六郎（一八七八～一九五九）に師事し、生涯、能に打ち込んだ人物です。自ら舞台に立ち、演目によってはプロも恐れ憚って避ける程と賞賛される腕前でした。当館が所蔵する能楽関係資料も、大正末から昭和初めにかけて直忠によって収集されたものです。

さて、当館が所蔵する資料の中に、三十枚のガラス乾板写真があります。この中には、壮年の直忠と男性を撮影した三枚、敷舞台で仕舞を舞う直忠を写した一枚の他に、能舞台での演能写真十七枚が含まれています。これら十七枚の内十六枚は、演能中の舞台を正面から撮影したもので、手前には能を観る人達が写っています。残りの一枚は、舞台に立つシテを脇正面側からアップで写したものです。直忠の写真と共に箱に収められていることから、これらの演能写真も直忠に関係するものと推測されます。

調査の結果、元々この写真を納めていた紙箱の「昭和六年六月一日能」の書付、同日の日付がある「井伊神社奉納能番組」（井伊家伝来文書）から、舞台を正面から写した十六枚は、昭和六年（一九三一）六月一日に井伊神社（彦根市）で行われた奉納能の写真であることが分かりました。井伊神社は井伊家の始祖共保を祀り、後に初代直政、二代直孝が合祀された神社です。当時、境内には彦根城表御殿の能舞台が移築されていました。この日の演目は〈玉井〉〈兼平〉〈二人静〉（写真）〈小袖曽我〉〈大江山〉の五番。写真の演目はこれと一致し、それぞれ三枚、五枚、四枚、二枚、二枚撮影されています。〈玉井〉〈兼平〉〈大江山〉のシテは直忠が、〈二人静〉のシテは直忠、ツレは万三郎、〈小袖曽我〉のシテとツレは万三郎の息子・万佐世と猶義が務めました。また、シテを横から捉えた一枚は、白垂に尉面をかけた姿から、昭和四年五月二十八日に同じく井伊神社で行われた奉納能の内〈実盛〉の後シテと考えられます。この時は、直忠が〈左近〉〈実盛〉〈土車〉〈石橋〉を、万三郎が〈松風〉を演じました（『朝日新聞滋賀版』昭和四年五月二十九日）。

昭和六年六月一日 井伊神社奉納能〈二人静〉

更にこれらの写真を詳細に観察すると、当館所蔵の井伊家伝来能装束がこの時使用されていたことが分かります。〈二人静〉で直忠と万三郎がまとっている長絹は、裾の流水文と大振りな枝垂れ桜と思われる花の様子から「紫地扇面に枝垂桜と流水文様長絹」と考えられます。また、〈実盛〉では、「萌葱地源氏香文様半切」と「浅葱金茶段替亀甲繋ぎに源氏車と桐文様厚板」が使用されています。これらは、井伊家に伝来した能装束の具体的な使用例としても貴重です。

この二回の奉納能は、直忠の帰彦にあわせて万三郎一行を東京から招き開催されたものです。当時梅若一門は、免状発行権に端を発した観世宗家との確執により破門され、能楽界から孤立した、いわゆる観梅問題のただ中にありました。直忠は、その梅若一門の後援者の一人だったとされています。それを踏まえるなら、この写真は、直忠の演能記録としてだけでなく、直忠と梅若一門との関係を考える上でも重要な資料と言えるのではないでしょうか。両者の関係について、今後は文献資料から裏付けていきたいと考えます。

（茨木 恵美）

能・狂言

◉第50回 彦根城能◉

■日時
9月10日（土） 15時30分開演（15時開場）

■演目
金剛流 能「巴」 今井 清隆
大蔵流狂言「魚説教」 茂山 正邦
金剛流 能「枕慈童」 種田 道一

■チケット
全席指定
A席（正面席） 5千5百円
B席（脇正面席） 5千円
発売中

◉錦秋狂言の集い◉

■日時
11月6日（日） 15時開演（14時30分開場）

■演目
大蔵流狂言 【解説】茂山 逸平
「粟田口」 茂山千五郎（正邦改メ）
「舟船」 茂山 逸平
「胸突」 茂山 千作（千五郎改メ）

■チケット
全席指定
A席（正面席） 3千5百円
B席（脇正面席） 3千円
10月6日（木） 発売開始

＊開演時刻・演目・出演者等は、都合により、やむなく変更することがございますのでご了承ください。
＊チケットは当館受付およびお電話にてお求めいただけます。
（発売初日は、館内販売9時～、電話予約10時～）
＊未就学児の方はご入場いただけません。

スケジュール 9月～12月

9月

- 3土 ギャラリートーク 井伊家伝来 狂言の面と装束
- 10土 能・狂言 第50回彦根城能
- 17土 教室 古文書のみかた⑥

テーマ展
井伊家伝来
狂言の面と装束
9/2～9/27

9/1 展示替により一部休室
9/28-29 展示替により一部休室

10月

- 1土 ギャラリートーク 参勤交代と彦根藩領 ―大名行列を迎えた人々―
- 15土 教室 古文書のみかた⑦
- 29土 ギャラリートーク コレクター大名 井伊直亮 ―知られざる大コレクションの全貌―

企画展
参勤交代と彦根藩領
― 大名行列を迎えた人々 ―
9/30～10/24

10/24-27 展示替により一部休室

11月

- 5日 講演会 特別展関連事業「コレクター大名 井伊直亮」
- 6日 能・狂言 錦秋狂言の集い
- 12土 教室 古文書のみかた⑧
- 19土 シンポジウム 特別展関連事業「江戸時代のコレクター大名～個性派大名の饗宴～」

特別展
開館30周年記念
コレクター大名 井伊直亮
― 知られざる大コレクションの全貌 ―
10/28～11/27

11/28-12/1 展示替により一部休室

12月

- 3土 ギャラリートーク 祈りと救い ―彦根城博物館仏教美術選―
- 10土 講演会 城郭博物館三館連携講演会
- 25日～31土 休館

テーマ展
祈りと救い
―彦根城博物館仏教美術選―
12/1～12/22

12/23-24 展示替により一部休室

常設展示 “ほんもの”との出会い

＊「古文書のみかた」は事前申込制です。

催し

◉特別展「コレクター大名 井伊直亮 ― 知られざる大コレクションの全貌 ―」関連事業◉

井伊直亮が蒐集した一大コレクションの紹介をはじめ、同時代のコレクター大名を取り上げ、大名のコレクションの特質を考えます。

講演会「コレクター大名 井伊直亮」
■日時 11月5日（土）14時～15時30分
■講師 髙木文恵（当館学芸員）
■会場 当館講堂
■定員 60名
■資料代 100円
（展示の観覧には別途観覧料が必要）
■申込方法 当日受付（先着順）

井伊直亮画像（清涼寺蔵）

シンポジウム「江戸時代のコレクター大名～個性派大名の饗宴～」
■日時 11月19日（土）13時30分～16時15分
■会場 当館能舞台正面見所
■報告・講師およびパネリスト
報告1「紀州藩主 徳川治宝」山下奈津子氏（和歌山市立博物館学芸員）
報告2「平戸藩主 松浦清（静山）」久家孝史氏（松浦史料博物館学芸員）
報告3「彦根藩主 井伊直亮」髙木文恵（当館学芸員）
■定員 120名
■受講料 500円
（展示の観覧には別途観覧料が必要）
■申込 当日受付（先着順）

徳川治宝画像（和歌山市立博物館蔵）

松浦清山（三勇像より）（松浦史料博物館蔵）

◉城郭博物館三館連携講演会◉

天下人の合戦
― 信長・秀吉・家康 それぞれの分岐点 ―

滋賀県立安土城考古博物館・長浜市長浜城歴史博物館・彦根城博物館の連携講演会を、今年も開催します。

■日時 12月10日（土）午後（時間未定）
■会場 滋賀県立安土城考古博物館
■定員 140名（定員を超えた場合は抽選）
■資料代 500円
■申込方法
往復葉書（一人につき一枚）。往信の裏面に、①城郭博物館三館連携講演会申込希望、②住所、③氏名、④電話番号、返信の宛名面に郵便番号・住所・氏名を明記の上、お申し込み下さい。
■申込期間
10月1日(土)～31日(月) 当日消印有効
■申込・問合せ先
滋賀県立安土城考古博物館
〒521-1311 近江八幡市下豊浦6678
TEL 0748（46）2424
※内容・講師等の詳細は決まり次第、当館ホームページ等でお知らせします。

世界遺産
彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登録されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行
彦根城博物館
〒522-0061 滋賀県彦根市金亀町1番1号
TEL 0749(22)6100 FAX 0749(22)6520
http://hikone-castle-museum.jp/
この印刷物は8000部作成し、印刷単価は8円です。